

## 第7回美里町立小学校適正規模等検討委員会次第

日 時：令和3年5月14日（金）  
午後2時30分～  
会 場：美里町役場 2階201会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 委嘱状の交付（新委員）

4 自己紹介

5 副委員長の選出について

6 議 事

(1) 美里町立小学校適正規模等検討委員会の経過について

(2) 今後のスケジュールについて

(3) その他

○次回

第8回美里町立小学校適正規模等検討委員会

日程 … 令和3年 月 日（ ） 午前・午後 時 分～

会場 …

7 連絡事項

8 閉 会

## 令和 2 年度 美里町立小学校適正規模等検討委員会開催状況

回数	日程・場所	議題
第 1 回	7 月 1 0 日 (金) コミュニティセンター 2 階大ホール	(1) 美里町立小学校適正規模等検討委員会について (2) 現在の美里町の児童生徒数及び学級数の状況と将来の見通しについて (3) 今後のスケジュールについて (4) その他
第 2 回	9 月 3 日 (木) 美里町役場 2 階 2 0 1 会議室	(1) 小・中学校の適正規模・適正配置の概要について (2) 適正規模等検討委員会関連の動きについて (3) 義務教育学校と小中一貫校について (4) その他
第 3 回	1 0 月 1 6 日 (金) コミュニティセンター 2 階大ホール	(1) 美里町立大沢小学校の視察について (2) 坂戸市立城山学園の視察について (3) その他
第 4 回	1 1 月 2 7 日 (金) 美里町役場 2 階 2 0 1 会議室	(1) 坂戸市立城山学園の視察報告について (2) 複式学級について (3) その他
第 5 回	1 月 1 5 日 (金) 美里町役場 防災倉庫会議室	(1) 美里町立東児玉小学校の視察について (2) 施設維持及び新設の場合の費用について (3) 同規模自治体の実例について (4) その他
第 6 回	2 月 2 5 日 (金) コミュニティセンター 2 階大ホール	(1) 美里町立松久小学校の視察について (2) 春日部市立江戸川小中学校の視察報告について (3) スクールバスの費用について (4) 保護者アンケートについて (5) その他

## 視察状況

場所	日程	参加者
美里町立大沢小学校	1 0 月 1 6 日 (金)	各委員・事務局職員
坂戸市立城山学園 (小中一貫校)	1 0 月 2 3 日 (金)	事務局職員
皆野町立三沢小学校 (複式学級設置校)	1 1 月 9 日 (月)	事務局職員
美里町立東児玉小学校	1 月 1 5 日 (金)	各委員・事務局職員
春日部市立江戸川小中学校 (義務教育学校)	1 月 1 9 日 (火)	事務局職員
美里町立松久小学校	2 月 2 5 日 (金)	各委員・事務局職員

※ 本資料は、あくまでこれまでの会議の経緯を振り返っていただくために、事務局が議事録を参照し作成した参考資料です。これまで委員会において議論されたすべての事項を反映したものではなく、また、委員会としての意見をとりまとめたものではありません。

## 第1回会議（令和2年7月10日）

### (1) 美里町立小学校適正規模等検討委員会について

（事務局説明）

- ・ 検討委員会の目的は、町立小学校の将来におけるより良い教育環境と充実した学校教育実現のための適正な規模、配置等を検討すること。

### (2) 現在の美里町の児童生徒数及び学級数の状況と将来の見通しについて

（事務局説明）

- ・ 1年齢ごと、行政区別・小学校区別で推計しており、平成23年度～30年度の人口データを使用し、一般的なコーホート法により推計を行った。
- ・ 美里町全体の人口推計、児童・生徒数推計、小学校児童数推移・推計、1年生児童数推計、いずれも将来的には減少傾向にある。
- ・ 学級編制については、法に規定する小学校1学級の児童数を40人（第1学年は35人）を基準とし、各都道府県教委が定めることとなっており、埼玉県では第2学年も35人となっている。
- ・ 学校規模に関しては、学校教育法施行規則における標準的な学級数は、小学校12～18学級（特別支援学級の学級数を除く）であるが、美里町の3小学校ともに標準的な学級数を下回り、小規模校となっている。

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 人口推計で社会増については考えていないのか。  
→ 社会増は変動要因が多い事もあり、含めずにコーホート法を用いた。
- 資料記載の通学距離の基準は、小学校4km以内、中学校6km以内とあるが、美里町の場合当てはまっているか。  
→ 文部科学省で提示された概ねの目安ということで、美里町内は基準に合っている。
- 2008年、大沢小学校の児童数が100人を切った時に、地元では廃校や統合の噂が出たが、その当時このような委員会があったのか。  
→ 当時の関係者に確認をとったが、こういった委員会はなかった。
- 1学年の生徒数が8人というのが2年続くと、小学校が合併になるという噂を聞くが、それは本当なのか。  
→ 埼玉県学級編制の特例を見ると、3～6年生までの間で2学年が合わせて16名だと1学級になるので、複式学級の編制になるが、直ちに他校と統合ということではない。
- 2030年に東児玉の小学校の1年生が松久小学校を逆転する。だんだん東児玉のほうで少なくなっていくというのが疑問に思うが、どんなシミュレーションで出ているのか。  
→ 平成23年～30年の実際の人口の推移を各小学校区ごと1歳ごとに集計し、そこから推計していくと、逆転が生じる可能性があるということ。
- 大沢小学校の新1年生のシミュレーションは、2034年からは7人となるが、どういうことになっていくのか。  
→ 3年生と4年生を合わせても14人だと、16人に満たないということになるので複式学級となる。5年生と6年生も同様。

**(3) 今後のスケジュールについて**

(事務局説明)

- ・ 第1回会議は7月10日に開催。以後およそ40日ごとに会議を開催する。

**(4) その他**

(事務局説明)

- ・ 会議録の仕様は、概要録とする。署名人は各会議名簿の上から2名を選任する。
- ・ 次回検討委員会の日程は、その都度会議にて諮る。

## 第2回会議（令和2年9月3日）

### (1) 小・中学校の適正規模・適正配置の概要について

（事務局説明）

- ・ 平成27年1月に文部科学省が策定した「小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」は、それぞれの地域の実情に応じて、学校統合の適否または小規模校を存置する場合の充実策等を検討する際の基本的な方向性や考慮すべき要素、留意点等をまとめたもの。
- ・ 学校規模適正化の検討については、あくまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきもの。学校統合を行うか、学校を残しつつ小規模校の良さを活かした学校作りを行うか等は、各設置者において、主体的に検討することが求められている。学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、地域コミュニティの核としての性格を有しているため、地域の実情に応じて、小規模校の存続を選択する市町村の判断も尊重される必要がある。

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 通学距離の基準が国庫負担の条件と思うが、文部科学省が作った手引きに添った形でやると国庫負担の対象になって、そうでない場合は、国庫負担の対象にならないという理解の仕方でのいいのか。  
→ 必ず4 kmで区切られるというのではなく、ある程度市町村の事情を考慮された中で国庫負担がされるものと考えている。

### (2) 適正規模等検討委員会関連の動きについて

（事務局説明）

- ・ 北部地区12市町村のうち、適正規模等の検討がなされている、または検討中が6市町で、うち具体的な動きが示されているのが熊谷である。
- ・ 児玉郡市内は、本庄市・上里町は予定なし。神川町は同時期に検討委員会が始まっている。

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 熊谷市の事例は、学校名等も具体的に統合案が示されているが、学校規模的にはどういう状況の学校の統合案なのか。  
→ 統合が考えられる2つの小学校は、原案によると片方の学校に通学をする見通しで、その際片方の小学校は、バスを利用して通学することが予想される。

### (3) 義務教育学校と小中一貫校について

（事務局説明）

- ・ 義務教育学校では9学年の校務を一人の校長が司り、教職員は基本的に小・中両方の免許を所有するのに対し、小中一貫校ではそれぞれの学校に校長がおり、それぞれ所属する学校の免許を教職員が所有する。
- ・ 義務教育学校と小中一貫校という2者選択ではなくて、始めの段階は3小学校のままでいくというのも1つの考え方。その他に、義務教育学校や小中一貫校というやり方もあるということである。

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 同じ敷地内に9学年いるのが理想形だと思うが、全国に、敷地が離れていても一貫校として成り立っている学校があるか。  
→ 京都府京都市立東山泉小中学校、広島県府中市立府南学園、新潟県三条市小中一貫校等の事例がある。
- 美里町の小学校・中学校は、これとは違うと考えてよいのか。  
→ 現在美里町の小学校で行われている教育というのは、小中一貫教育ではなくて「小中連携」で、小学校と中学校で連携しながら子供達の教育をやっている。

### (4) その他

（事務局説明）

- ・ 次回会議の日程調整

### 第3回会議（令和2年10月16日）

#### (1) 美里町立大沢小学校の視察について

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 見守りボランティアの区間というのはある程度決まっているのか。ボランティアの方は何人くらいいるのか。  
→ 10名を超える方が登録している。毎朝少なくとも5名程度の方が校門近くまで来ている
- 施設・設備が非常に綺麗に整備されているので感心した。これからもし統合となった場合、もったいないという気持ちがある。
- 一番多いクラスが2年生の19人で4年生は9人、メリット・デメリットは。  
→ およそ20名を切っている状況なので、コロナ禍では、密は必然的に避けられている。  
特に、少ない学年が9名で女子が2名の状況だが、男女の仲が非常によいので、クラス運営について何か問題があるということはない。  
ただ、クラス替えがないので、子供達の環境というのはある程度固定化される部分はある。そこを解消しようと、学校全体では縦割りの活動を行っている。
- 円良田の方面は「ここから来ているの」とびっくりした。行き帰り親族が送迎していると聞いたが、歩いて行って帰って来るとするのは不安に思った。
- 明るい兆しが見られる部分もあったが、先行きこの地区はどの様になっていくのだろうと心配な部分もあった。若い人が新しい住宅を作っている雰囲気が見られるのが猪俣地区だが、児童数3名の円良田に関しては、児童数が増える要素は厳しいと思った。
- 円良田の方は遠いというのはイメージで分かっていたが、実際にその道を走ってみて、道が細く高低差があり曲がっている部分も非常に多い。一番先の円良田特産センターの辺りは、一山向こうの感じで、日が暮れるのもきつと早いと思う。  
円良田に新しく家を建てようと思った時に、親族がもしいなかったら子育てはなかなか難しいのではないかと思う。
- 円良田等は、両親や近所の方が乗せて帰ってくれたりがあり、東側の方は、比較的自分の足で子供達が歩きながら登下校しているという話だったが、自分の子供の友達を乗せて行って、事故を起こしてしまったということは聞いているか。  
→ そういった話は今のところ聞いていない。
- 実際にスクールバスが運行できれば一番いいと思う。円良田地区は車で送り迎えをすと言っていたが、他の地区はどこかに集まって一緒に登校する形をとっているのか。  
→ 朝は集合場所が決まっていて、各班その場所に集まってから歩いて来ている。円良田の班は3名だが、峠を降りた先の公園の所まで車で送ってもらっているようで、そこから歩いて来ている。
- 人数が少ないから先生が子供達に声をかける回数が多くなり、きめ細やかな指導ができるのだろうと思った一方で、この子には負けたくないという刺激は難しい。先生方がこんな工夫をして子供達に刺激を与えているという例があったら教えていただきたい。  
→ 学級の中の刺激という部分では、個々の関わりの中でどうしても固定化されていることは否めない。ただ、それを打開すべく一つの方策として、縦割りの活動ということで取り組んでいる。また、地域の方に学校にいろいろな形で来ていただいて、学校外からの刺激という部分で、非常に地域の方にご協力をいただいている。

- 体育で人数が多く必要な授業は、どのように行っているのか。あるいは、校外行事として修学旅行や宿泊学習があると思うが、人数の少ない中でどう工夫をしているのか。
  - 大きな集団でのゲームは、どうしても学年だけではできない。ただ、学年を2つまたいで連携をとって、人数的なことをカバーしながら体育の授業を行う場面もある。
    - 5年生の林間学校が来年度9名だが、隣の松久小学校と実施日を同じ日にして、最低限キャンプファイヤー等の集団で取り組むものについては、一緒に行くように計画している。
- 円良田地区や小栗地区は、6年生が卒業してしまうと通学班の編成が大変になりそうだが、どのように考えているのか。
  - 通学班に関しては、この後の新入生と卒業生の状況による。学校だけだとできない状況であり、地域の方・保護者の方の協力の中で、一つの案として通学班を提示してもらい、それをまた職員等で確認して最終的に通学班を決めて、4月にスタートする。
- 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を見る限りでは、メリットよりデメリットの方がちょっと大きい感じがする。特に通学区域が非常に広範囲に渡っているということで、子供達が可哀想な面もあるし、危険な面もある。結局は保護者の方やあるいは、ボランティアの方に協力してもらったりしているが、美里町に住んでも保護者の負担が多くて、夫婦のどちらかが必ず家庭にいないかならなければならぬとかそんな問題が出てくると、人口減少が益々加速するのではないかと考えられる。

## (2) 坂戸市立城山学園の視察について

(事務局説明)

- ・ 城山学園で特徴的なのは、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期と分かれていて、小学校1年生から4年生がⅠ期、5年生・6年生と、この学校については小中一貫校なので7学年(中学1年生)がⅡ期、8年生・9年生(中学2年生・3年生)がⅢ期、その区切りでカリキュラムを組んで行っている学校である。事務局による視察にあたり、こんな部分を聞いてきてほしいと要望があったら、取材していきたい。

(質問したい内容)

- Ⅰ期の4年生がリーダーの役割を果たしているのかどうか。
- 5・6年生、中学1年生がⅡ期ということで、中学校の先生が小学校をみたり、小学校の先生が中学校をみたりしながら教えていると思うが、機能しているのか。
- 制服に関しては、何年生から着用するのか。あるいは、制服はないのか。
- 部活動に関しては、何年生から入るのか。地域の試合に出場する時に、7年生からで一般中学校と同じでという考え方か。
- 通学班はどのような編成で、徒歩なのか自転車か。
- Ⅱ期のところで、小学校の教員、中学校の教員がどのような指導体制でやっているのか。
- 何か課題になっているようなことはあるか。

## (3) その他

(事務局説明)

- ・ 次回会議の日程調整

## 第4回会議（令和2年11月27日）

### (1) 坂戸市立城山学園の視察報告について

（事務局説明）

- ・ 10月23日（金）の坂戸市立城山学園の視察について説明。
- ・ 坂戸市立城山学園は、既にある小中学校を組み合わせ教育を行う、小中一貫校である。施設一体型で、敷地内に新設のプレハブ校舎を建てて教育を行っている。
- ・ 全校児童128名、全校生徒79名、各学年とも1クラスの学校で、小学校1校、中学校1校を統合した一貫校になる。校長を含め、7名が小中学校を兼務しているが、教科担任ではなく、非常勤講師や校務員が兼務している状況である。
- ・ 4年生がどのようにリーダーの役割を果たしているかについては、1年生の対応を4年生が行うようになっている。担任の指導だけでなく、学校における注意事項、学校給食紹介、本の紹介等を自主的に行いながら自然とリーダー性が育っているとのことだった。
- ・ 5・6年生の理科の授業に関しては、中学校教員が補助として入っている。英語は中学校教員が1名しかいないため、市費の非常勤講師とALTを雇い対応している。算数も常に中学校の教員が入ることは難しいようだが、空き時間に応じて入ることもあるそうである。
- ・ 小学校教員と中学校教員が連携するにあたっての課題は、打ち合わせ時間の確保が難しいことである。小学校教員は放課後、中学校教員は空き時間と、職員室にいられる時間が基本的には違ってしまふことが原因の1つようだ。中学校教員は放課後に部活動がある。
- ・ 8・9年生の2年間での進路指導については、主にブロック朝会で進路指導を行っている。8年生も中だるみという現象は起こっていない。
- ・ 部活動に入れる学年は、5年生からということだが強制ではない。保護者の了解があれば土・日の部活動にも参加できる。大会の参加は、中体連に中学生のみが参加することになっている。
- ・ 学校としての課題は、少子化がすごく進んでいるという事、また駅から遠いという立地的な事の話があった。
- ・ 小・中の学校としての文化の違いが、意見の相違として教員から出てくる事は開校当初あったが、今は見られなくなり、よく話し合いや会議を一緒にやって意思疎通ができるようになってきた。
- ・ 校舎は、元々中学校だった敷地内にプレハブ校舎を新設して建てて、1年生から4年生までがそこで学習している。見た目にはプレハブ校舎という感じでは全くなかった。

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 課題として抱えている「小、中の文化の違い」とは。
  - 教員が職員室にいられる時間であるとか、1つの教科を教科担任だけが授業をする中学校と、担任がほとんどの授業をする小学校という点で、子供の見方等に対する考え方が少し違っていた話はあった。
- 西校舎（1年生～4年生）が窮屈な所に建てられているという感じがした。校舎がどのくらいの広さで価格はどのくらいかかっているのか。
  - 校舎に行ってみての感想としては、それ程窮屈に感じなかった。プレハブ校舎の価格は、机・椅子・エアコン全て含めて、レンタル一式で10年間1億円ということで、建物だけではなく備品も含めて、全て10年間その価格とのことである。  
校舎設置にあたり、トイレや水道は高さが大きな問題になっていて、小学校5年生以上は中学生と同じサイズ感で使用可能であるが、1年生から4年生までは難しいということで、新たにプレハブ校舎を造ったとのことである。



## (2) 複式学級について

(事務局説明)

- ・ 11月9日(月)の皆野町立三沢小学校の視察について説明。
- ・ 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、複式学級は一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。地理的条件等によって統合困難な事情がある場合は、小規模校のメリットを最大限生かす方策や、小規模校のデメリットの解消策や緩和策を積極的に検討・実施する必要があるとあると書かれている。
- ・ 三沢小学校は全校児童35名、3・4年生、5・6年生で複式学級となっている。
- ・ 教員数は、実質11名ぐらいで学校をまわしている。指導内容によって他学年で指導することが困難な部分があることから、非常勤講師(複式解消)、エキスパート教員、学校教育指導員兼理科実験観察アシスタント、小学校英語指導員の4名に関しては、町費で派遣している。その他に美里町でも雇用している学習支援員2名、これが週3日6時間勤務という事である。
- ・ 今は固定して3・4年生で複式、5・6年生で複式にするという方針を決めたそうである。固定しておけば、クラスの半分がクラス編成をし直したのと同じ効果が得られるとのことである。また、令和4年には全部複式学級になるそうである。

(意見交換(主な質疑・意見等))

- 小中一貫校の話、複式学級の話があったが、この会議は小学校3校をどうするかのための会議だと思うが、小中一貫校を考えての会議なのか。  
→ 議会の一般質問でも、小中一貫校等も含めて色々な学校の在り方について研究していく適正規模等検討委員会を作っていきたいと答えた。小中一貫校ありきという事ではなくて、小中一貫校も含めて色々検討していくというスタンスで考えている。
- 複式学級で授業をやるという事は、個々には目が行き届くかもしれないが、なかなか難しいという事が文部科学省の資料に出ている。文部科学省の資料をよく分析・理解して、美里町の小学校はどうすべきか、統合するべきなのかそうではないのか、これからの少子化等も踏まえて、地域とともにある学校づくりを考えていかななくてはならないのではないかと思います。
- 複式学級というような形で学校を残すためには、教育委員会がそれなりの人を確保しなければならぬ。また、人を確保するだけでなく、指導の工夫といった事もかなりやらないと、この三沢小学校のようにはならない。  
美里町の小学校の児童数は、1年生から6年生まで全部2桁であり、全部合わせてもちょうど標準学級ぐらいというのが実態である。今後、美里町の子供達がどんな教育環境の中で教育を受けるのが良いのか、また限られた予算を有効に使うにはどうしたら良いか、皆様に知恵を出してもらわなくてはならない。
- 複式学級は2学年までしか広がらないのか。小学校全体で1学級とか2学級にならないのか。  
→ 国の方の文言をそのまま取ると、2学年合わせてという形となっているので、2学年になる。
- 三沢小学校は統合の話はあがっているのか。  
→ 事前に取材したところによると、皆野町は予定がないそうである。
- 皆野町は何校小学校があるか。皆野町の人口は1万人ぐらいで、イメージ的には美里とあまり変わらないと思われるが、その辺はどうか。  
→ 皆野町には、皆野小・国神小・三沢小の3校がある。5月1日現在、皆野小学校の全校生徒数は326名で、国神小学校は73名。三沢小学校は既に複式になっているが、皆野小学校だけが326名で、1つの学年約50名前後なので、2学級並行になる規模である。

- 統合について、大沢小学校は既に児童が少なく、私の意見としては統合してほしい。人数が少ないと、教育上は先生に細かく勉強を習えるメリットはあるが、クラス替えがないというデメリットもある。ただ、統合については、東児玉・松久・大沢の各学校の地元の方が、統合の話し合いをしているのを知らないと思う。地元の方の意見を聞いて最終判断となると思うが、今時点では聞かないのか。
- この会議は、学校規模と学校の配置とその2つを美里町全体で考えて、答申を出して欲しいと教育委員会から諮問を受けている。まずはきちっとした議論と根拠の下に、先ほどの2点について答申を出していく。そしてその答申について、色々な方が理解を示していただけるような答申にするのが我々の使命だと思う。学校というのはこれまで地域の文化、核として担ってきたという部分もあるので、それも加味しながら、我々は今後考えなくてはならない。
- 答申についてはアンケートを取る予定と聞いているが、その辺はどうか。
- 学校教育施設の配置等のあり方、学校適正規模等のあり方について、アンケートはとっていきたいと考えている。
- クラス分けできるようなクラスであれば、生徒指導上の問題を考えた時に色々な対応の仕方があるが、クラス替えがなく持ち上がりとなると、6年間そのままの状態が上がっていく。
- 子供たちのことを一番考えると、ある程度の人数の中でしっかりと学ばせるということが、適正な学校の中の教育というものには必要と思っている。
- 少子化で減少傾向にある学校にも、その学校なりの魅力的な部分もある。教えるという立場から感じたことは、複式という形だけは避けたいということである。
- 美里町の子どもの数は今後減っていく。2026年、6年後には入ってくる1年生が63人、2クラスがやっとという状況になっていくのが現実である。もし今後、このまま残すとすれば、町費による職員の配置等でかなりの費用負担がかかる。  
こういった事実を保護者の皆さんがどう考えているか、地域の方がどう考えているかという部分を我々がアンテナを高くして聴き取っていくのが大切だと考えている。

### ③ その他

(事務局説明)

- ・ 次回会議の日程調整

## 第5回会議（令和3年1月15日）

### (1) 美里町立東児玉小学校の視察について

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 東児玉小学校の3年生は混み入った感じで、こんなに混んでいて大丈夫かといった印象を受けた。大沢小学校のように広い形で授業ができないのかと思った。
- トイレが新しくなったが、床の劣化がかなり進んでいること、木が割れていたことを感じた。
- 東児玉小学校出身で、私がいた頃は、全クラス子供がいっぱいだった。今、見ると空いている部屋がちらほら見受けられるというのが印象的だった。
- パッと見ての印象は、すぐに密だと思った。東児玉小学校の3年生は1クラス37名入っていたので、不安しかないという印象だった。もし統合になった場合、3校が一緒になるとしたら児童数が多くなる。統合はして欲しいと思ったが、東児玉小学校を見て不安に思った。
- 学校の沿革を見ると、昭和53年に新校舎完成とある。その後平成21年に改修が行われていると見受けられる。それから12年経っているので、次に何年先か分からないが手を入れていかなければならない、お金のかかるようになった校舎になってきていると思った。
- 平成21年、3つの小学校の大改修の時に、当時美里中学校が新築になったが、大改修をしても新築とは全く違うというのがその時の印象だった。
- 大沢小学校は非常に少人数だから、踏み込んだ指導ができるのと同時に施設は余裕があると感じたが、東児玉小学校は一人ひとりきめ細かな指導というのは大変と思った。ただ、東児玉小学校は40人いるということで活気があると感じた。数が多いということで色々な性格の子供達と接触することができて、色々なことを学び取ることができるのではないかと感じた。
- 35人学級がこの後進む中で、子供達にとってどの人数が一番適しているのかというのは難しいが、ある程度の人数の中で、色々な問題に直面し、解決しながら成長していくというのも、子供達にとっては必要と感じている。
- 40人というのは多く感じるけれども活気はある。活気があった方が子供達には良いと感じた。

### (2) 施設維持及び新設の場合の費用について

（事務局説明）

- ・ 美里町においては、令和2年3月に美里町公共施設個別施設計画を策定した。その中に施設を長寿命化する場合のコストの見通しのグラフがあり、今ある施設をなるべく長く使える形で大きな改修を加えながら施設を維持していくと、全体35年の計画で60億4千万円程の費用がかかるという計算をしている。その中から小学校を分離すると、35年間でおよそ40億円弱かかる試算が出ているところである。
- ・ 新設の費用については非常に想定は難しいが、公共施設の計画を策定するにあたって使われた、総務省の公共施設更新費用試算ソフトの単価のうち学校教育系施設の単価、1㎡あたり33万円を利用し、仮に東児玉小学校の教室・体育館・給食室の面積を合計して、33万円の単価を掛けて13億6千万円の試算となる。これについては、あくまで最低ラインの金額と考えられるものであり、実際には、ここで表示されている以上の費用がかかることが想定される。
- ・ 修繕費については、令和元年度は大きな修繕がないにもかかわらず、年間1千万円以上修繕費がかかった。施設が古くなっていくにつれて、修繕費が当然大きくなってきており、3小学校を維持していくには、修繕費がさらに増加していくことが想定される。

(意見交換(主な質疑・意見等))

- 15年間20億円で現状維持がなされている。建物だけ新しくすると1校ならば13億円、真ん中に1校建設するとなると土地代もかかってくるから20億円位かかってしまうというイメージになる。
- 学校新設の資料で、松久小学校を見ているが、4年で4億5千万円、9年で1億円、14年で1億円、これだけでも6億5千万円かかる。新しい校舎だと20年という事を考えると14年で改修費用を超える。そうするとやっぱり新設した方が安くなるのではないか。
- 中学校の近くに統合になった場合、これに伴って児童達を送迎すると、まだまだ多大な金額がかかる。修繕の数字を見ると、建て替えた方が良いと思う。一般家庭でとらえれば、古い家を何百万円もかけて直しても、2・3千万円の家を作る方が良い。
- 適正な位置に新設の学校を1つ用意して、スクールバスで輸送したらという想定シミュレーションを作っていたきたい。大体3km圏内は、45分位になっていると思うので、3km以上の子供達が歩いて来てバスに乗る想定で良いと思う。全員がバスと考えないで、小学生はあくまでも自分の足で歩くと。どうにも1時間超えてしまうような子供については、スクールバスでと考えてもらうのが良いと思う。
- 新設費用で、地代は考えているか。
- 今、地代はだいぶ安くなっているから、土地も買い時だと思う。今まで意見を聞くと修繕より新設の方が安くあがると思う。  
→ 地代は除いている。建物だけの想定である。
- 初めてこういう費用面から踏み込んだ訳だが、何となく皆様の考え方を聞くと、修繕より全く新しい校舎を作ってしまう方が、単価が安く済むのではないかと思う。
- 小学校3校の大規模改修が10年位前に終わった。お金をかけて改修すると、きれいになると思うのだが、実際に改修が終わって行くと、思ったほどではなかった。
- 大規模改修といってもそれぞれ目的が違ったり、当時の学校の状況で違うので、きれいにするためというよりも、耐震化というのが第一目標だったと伺っている。

### (3) 同規模自治体の事例について

(事務局説明)

- ・ 埼玉県外で美里町くらいの規模で検討委員会をやっている所はどこかという質問に対し、長野県南佐久郡佐久穂町の実例を示す。
- ・ 平成19年2月に小中学校・保育所のあり方検討委員会が設置され、小学校4校、中学校2校の今後について白紙から検討がなされ、平成20年4月に小中学校・保育所あり方検討委員会から、小学校1校、中学校1校に統合し、新設校舎を建設すべきであるという提言がなされた。これに基づき佐久穂町は、平成21年12月に小中学校のあり方の町の方向性を提示し、提言を受け地区懇談会・保護者説明会・アンケート等を実施していった。  
委員会の設置から開校まで8年2か月程かかっている。  
新校は平成27年4月1日開校なので、新しい施設である。プールが小中学校別々に新しく設置されていたり、全天候型テニスコートが設置されていたり、かなりお金のかかった施設になっている。平面図形とか色々な部分を見ても、少しゆとりのある造りになっている。
- ・ 美里中学校が約10年前新校舎を建てたが、当時13億くらいだった。その頃、国の補助金が50%付いていて、今回新築した場合に補助金がどのくらい付くのか調べたが、今現在は補助金があまりない。起債等、造ってから見えない部分で面倒を見てもらえるのが多少あるのはあるが、昔のように50%というものは今のところないため、今後探していかなければならない。この佐久穂町などはタイミングよくしっかりしたものができたと思う。

(意見交換(主な質疑・意見等))

- 美里町の人口は10年後に増えることはまず有り得ない、この後も増えないと感じている。そういうことを考えると、このまま3校でいくのが良いのかどうかというのを感じた。
- お金の都合がつくのであれば、こういう感じのものを美里町にできたらいいと思う。
- 通常なら40年、長寿命化で60年子供達に使ってもらおうということを考えると、どうせ造るなら良いものを造っておく方が良く思う。

佐久穂町の人の願いというのは、整備事業の経過に出ているかと思う。町村合併をすると、どちらが主導権をとるかが必ず出てくるが、2年後にはあり方検討委員会を立ち上げて、そして3年後には提言を出している。かなりのスピードでみんなが一丸となって、自分達で良い学校を造っていくんだという方向が見てとれる。

- 委員の皆様方を見てみると、子供達のためには良いものを造ってあげたいという意見が多い。そういう面では、佐久穂町の皆様の考え方と参加の委員の皆様方は凄く似ていると感じている。

美里町もこういう提言を出した時に、地域の人達が50年後、60年後使える校舎を残して、子供達の幸せや教育を発展させてあげたいと考えてもらえると良く思う。

適正規模という点でいうと、皆様の考えは3つの学校を1つにしていくのが良い、または止むを得ないのかと見てとれたが、問題はいつ頃の時期にすれば良いのか。または1つにした場合、どこに造れば良いのか。次回、時期とか場所とか、そういったものを考えていかなければならないのではないかと思います。これが最終的な答申に盛り込まれていくのが良く思う。

- 意見が少しずつまとまってきたところで、ここまでは決まったと少しずつ積み上げていきたいと思うが、今日の段階では、子供達の為に時期は分からないが、ゆくゆくは町としてはやむを得ないのだろう、ということだと思う。

時期や場所については、この次に松久小学校を視察した後、少し話を詰めていければ良く思う。

#### (4) その他

(事務局説明)

- ・ 次回会議の日程調整

## 第6回会議（令和3年2月25日）

### (1) 美里町立松久小学校の視察について

（意見交換(主な質疑・意見等)）

- 改修してきれいになった所と造ったままの部分が混在していて、古い部分もとてもよく掃除されているが、限界があるという感じではあった。  
クラスの人数が30人前後というのが、一番望ましい数かと思う。30人前後だとクラスの活気もあるが、35人を超えて40人近くになると、すごく多いという感じがするし、20人になってしまうと寂しく、授業の発言とかも活気が出ない印象を受けた。
- 教室、グラウンド、また他の施設も、目に見えて狭さを感じた。子供達にどのようなストレスを与えているのが心配されるところがあったが、それを感じさせないように、きめ細かな清掃、整理整頓が上手にされていると感じた。
- 色々な箇所を見て、天井、壁、ドアの下の石の部分など、ちょっとした箇所が古いと思った。1クラスあたりの子供の人数は、30人くらいが理想的なのかと思う。まだ統合するかしないかわからないが、この建物をそのまま使用していくのは厳しいと思った。  
もしも統合した場合、大沢小学校も東児玉小学校も松久小学校も、一番遠い地区は通学が難しいというか危ない。そこを子供達に歩かせるのは危険だと思ったので、やはりスクールバスなどが遠い地区にあれば、親としても安心できるのではないかと思った。
- 用具等もかなり古くなっていて、子供達の跳び箱を見ているとかなり心配があった。天井など、かなり傷みが進行していると感じた。  
良い点は、廊下や壁に教育の良い工夫がされているので、勉強になると感じた。
- 前回の東児玉小学校と床や壁が同じようで、多少の3小学校の年月の誤差はあるだろうが、皆同じで古くなってきていると思った。
- 人数的に30人前後が一番相応しいという印象を受けている。今度、35人体制という形になるということを知っているが、35人でもちょっと多く、30人くらいが丁度いいのではないか。  
例えば、新しい校舎を建てるのであれば、大きい教室なんかも考えていけたらいいのではないかと思う。
- 教室を見て、入っている人数は30人くらいが限度という感じがした。それ以上になると苦しい。国の基準があるということだが、うまい策はないのかと思った。
- 大沢小学校は人数が少なくってちょっと活気に欠ける。東児玉小学校はそれなりに人数がいて大変活気がある。今日の松久小学校は30人くらいで丁度良いという感じを受けた。やはり少ない人数よりは、30人いるクラスの方が活気もあるし、切磋琢磨して競争意識も湧くし良い。少ないと競争意識もなくなってくる。  
通学路の関係で3校見てきたが、遠くから通う子供達ほど歩道がない。街に行けば歩道があって、子供達は歩けるが、遠くの方こそ歩道が無くて、道路も狭くて、そこを歩いて来なくてはならない。そんな状況を考えると、今のままの状況で良いのかと感じたところである。
- 子供達が家を出てから、学校で学んで家に帰るまで、どのように守っていくかというのが大人の役割と思う。皆様方の話を総合しても、通学路の問題、統合の問題、そして学校で学ぶ問題、クラス替えやクラスの人数の問題、様々な問題がある。そういったものをこの後の答申の中で含めていかないといけないとなると、難しいと思う次第である。

## (2) 春日部市立江戸川小中学校の視察報告について

### (事務局説明)

- ・ 1月19日(火)の春日部市立江戸川小中学校の視察について説明。
- ・ 江戸川小中学校は小学校2校、中学校1校を統合した、県内初の義務教育学校である。1～4年生をジュニア、5～7年生をミドル、8・9年生をハイと3つに分けて位置付け、9年間を見通した発達段階を重視した指導を行っている学校である。どの学年も1クラスの編制である。中学校が建てられていた場所に、ジュニアクラスの校舎を新設している。
- ・ ジュニアクラスの新設校舎は平屋建てで、特徴としては、子供達が登校する昇降口とは別に靴箱が設けられていて、教室から直接校庭へ出られるようになっている。
- ・ 普通教室の様子は、廊下のスペースが広く設けられていること、また給食着を掛けるフックが教室内に設置されていることで、更に廊下のスペースが広く感じられる。
- ・ 教職員の形態は、5・6年生には、小学校担任が半分、中学校の教員が半分の教科を担当している。中学校教員の教科について、5・6年生が行う教科については、その年の教職員の配置によって異なっていく。今年度は、理科・英語・体育・音楽・家庭科が中学校教員による授業になっているそうである。中学校の美術・技術は非常勤講師で対応していて、教員職員の定数については、小学校と中学校別々の定員を足して、1つの学校にしている状況である。
- ・ 全員がスクールバスで通学をしている。バス停は家から半径300メートルくらいの所に設置されている。バスについては2台で対応している。下校時は、下校時間が学年によって違っているので、2・3回バスを出している状況である。
- ・ 小規模特認校ということで、学区外の小学生が来ているというのが特徴である。学区内の小学生は、スクールバス2台で登校してくるが、学区外の小学生が江戸川小中学校を選んで学校に来る場合は、保護者の送迎又は公共交通機関による通学を行っている。中学生については、全員が自転車で通学をしている。
- ・ 制服は、7年生と呼ばれる中学生から着用する。小学生の服装は自由だが、体育着は、中学校と同様のものを着ているとのことである。ただ、小学校は自由で良いということにしているので、前の学校の体育着も使用可ということであった。
- ・ 小学生と中学生が一緒にいることで良かったところは、中学生が穏やかになったという声が多数聞かれているということ、またリーダーとしての範囲が広く、下に8学年いるので、学校を引っ張っていかなくてはいけないと考える機会になっていて、良いリーダー性が育っているということだった。教員側としても小さい頃から指導することによって、子供の理解に繋がっているという話もあった。
- ・ こちらの学校を開校するにあたり準備委員会があり、地域住民の充分な話し合いの下に、学校の位置や校舎の内部等を決定していったそうである。

### (意見交換(主な質疑・意見等))

- 春日部市立江戸川小中学校は、いつから始まったのか。全部1クラスということだが、人数は何人か。  
→ 江戸川小中学校は、昨年度より開設されている新設の学校である。今年度の人数は、全校9学年で190名である。
- 3校を維持していくお金、それを1校にしてバスを使ったお金の関係とかは言っていなかったか。その辺りのお金はトントンなのか、それとも今の方が安いのか。  
→ 今の維持する費用との比較までは確認していないが、スクールバスの運行に関しては、平成31年度から5年の契約で、今年度の予算については、1,610万円と伺っている。
- 小規模特認校という言葉が出ているが、これは義務教育学校だからできるのか、あるいは小中一貫校だからできるのか、あるいは単に生徒数によって決まっているのか。  
→ 小規模特認校については、小中一貫校だからとか義務教育学校だからではなく、あくまでも市町教育委員会から埼玉県に申請をして認められた所と理解している。

### (3) スクールバスの費用について

(事務局説明)

- ・ 中学校付近を中心とし、通学距離が3kmと推定される円を地図に描いた。
- ・ 東児玉地区については、一旦東児玉小学校に集まり、そこから大型バスで2往復することを想定した。対象児童数がある程度多いことが想定される中で、大型バスでも1回ではちょっと送りきれないことを想定し、2往復という形で計算した。下校時については、学年により下校時間が異なるので、ある程度時間帯をずらして2便ずつ計4便という形の想定をした。
- ・ 松久・大沢地区については、東児玉地区と比べてエリアは広いが、対象人数が少ないと思われるので、中型バスを想定した。通学区域がかなり点在していることが想定される中で、時間等を勘案して、中型バス2台で2コース周る仮の想定をしている。  
大沢小学校の学区は円から外れる部分が大多数と想定されるので、大沢小学校の辺りや白石、円良田を経由することを考えた。また、松久小学校の広木地区の粉木の辺りも通学距離がだいぶあると想定されるので、今回の前提条件として、その辺りもフォローした。
- ・ 以上の想定の中で、業者に見積りを依頼したところ、1日あたりの参考見積額が出て、東児玉の大型バスが1日あたり107,000円、松久・大沢地区が中型バス2台で186,000円という想定となった。これについては、想定される中の最大値の金額で出した部分であり、実際にもし委託することになれば、競争原理の下にかなりの減額があることが予想されるので、こちらはあくまで最大値という意味合いで捉えていただきたい。  
バスについては、いろいろな議論が当然あると思うが、今回は、北部と南部で2パターン示しており、その組み合わせ等で色々想定できると思うので、たたき台として示した。

### (4) 保護者アンケートについて

(事務局説明)

- ・ 令和3年度に適正規模・適正配置等に関する保護者アンケートを実施することを検討している。実施時期について2つの案を検討中である。
- (1) 答申の前にアンケートを実施して、そのアンケート結果を踏まえた上で、この検討委員会で答申を作っていく。
  - (2) この検討委員会の中で、今までの議論の流れの中で答申をしていただき、それとは別にアンケートを実施して、その2つの意見を総合して町が判断する。  
2案について、委員の皆様の率直な意見を伺いたい。

(意見交換(主な質疑・意見等))

- 答申の前にアンケートを取るということは、保護者は色々な情報を知り得た上でアンケートに答えられるのかどうか。例えば、児童数の推移、通学距離の問題や校舎の耐久年数を知った上でアンケートに答えられないという心配がある。  
逆にアンケートを答申後に出した場合は、そういった情報は答申の資料の中に含まれるので、わかりやすくはなるが、答申に流されはしないかという心配もある。  
また、我々は委員としてずっと検討してきた訳だが、アンケートを先にとった場合、我々の答申が逆に左右されはしないか。我々は、10年先、20年先を考えてやっている訳だが、そういったもの以外に左右されはしないか心配もある。
- 答申が出て、煮詰めたものをある程度出してからが良いと思うが、一概には言えないと思う。
- 何も資料が無く突然アンケートに答えるとしたら戸惑うので、資料があった上でのアンケートの方がいいかと思う。  
最初この会議に出た時は、何もわからない状態でやっていたので、個々の小学校を残せればと思っていたのもあったが、資料を得て考えが変わっている部分もあるので、やはり資料があった上でのアンケートの方がいいのかと思う。



- 6回の実績を踏まえて、大変だろうが経緯をまとめて、子供のため、そして美里町の将来のため、ここに子供を持っている家庭がいっぱい入って来て欲しい、魅力ある町なんだということを前に出しつつ、その方が良いような気がする。ここでアンケートを出すのは、順番が違う気がする。
- アンケートの位置付けを教えてあげた方が答えやすいかもしれない。
- アンケートはアンケート、この会はこの会と、独立性がないと、この会が持っている意味が全く生じないと思う。
- 答申を出すということが一番だと思う。アンケートはアンケートで参考として、わかりやすいアンケートを出して、回答をもらって、答申はこういう答申でいくんだよというような形でやっていったほうが良いのではないかと思う。
- 突然、アンケートという話は非常に乱暴だと私は思う。こういう企画だということを、事務局が提案して答申の前と後の2種類作ったらどうか。アンケートというのは、そのくらい重要なステップである。
- 何もない中でアンケートを取ると、どうしても自分の地域優先となる。そういうことであれば、ここで会議した意味が無くなってしまうということもある。  
ここに委員は、ちゃんとメリット・デメリットを理解した上で、この方向へいきましょうということと答申を出すので、その過程を説明した上でアンケートを取る。それで、是非を問うことが大事かと思う。
- この委員会は諮問に基づいて、きちっと答申を出していけば良いのだと。美里町の10年後、20年後、子供達の教育、そして保護者にとっても良い、そういう環境を整えていく答申を出すためにやっていくのであるから、まずこれはこれでやっていくということになる。  
このアンケートは何のためにやるのか、この後もしやるのであれば、目的もはっきりとさせなければならぬと話があった。やるのであれば、保護者の皆様が驚かないように、しっかりした準備をして、資料を付けて、わかりやすくやるべきだろうということが、会の総意だと思うので、事務局に理解いただきたい。

## (5) その他

(事務局説明)

- ・ 委員の改選について
- ・ 次回会議の日程調整

## 令和3年度美里町立小学校適正規模等検討委員会スケジュール（目安）

令和3年5月14日現在

	開催日	審議事項
第7回	令和3年5月14日	・美里町立小学校適正規模等検討委員会の経過について ・今後のスケジュールについて
第8回	令和3年6月中旬	・答申（案）について
第9回	令和3年8月上旬	・答申（案）について

## 令和元年度決算 町立小学校運営経費

学校名		松久小	東児玉小	大沢小	計	
児童数 (5/1現在)		177	266	92	535	
学校管理費	小学校管理総務事業	各校按分(1/3)	5,752,443	5,752,443	5,752,443	17,257,330
	松久小学校管理事業		14,463,515			14,463,515
	東児玉小学校管理事業			16,555,539		16,555,539
	大沢小学校管理事業				12,161,011	12,161,011
教育振興費	小学校教育振興総務事業	各校按分(1/3)	3,736,513	3,736,513	3,736,513	11,209,539
	松久小学校教育振興事業		1,497,237			1,497,237
	東児玉小学校教育振興事業			2,057,650		2,057,650
	大沢小学校教育振興事業				1,092,156	1,092,156 (参考)
学校給食費	学校給食管理運営総務事業	各校按分(1/4)	12,139,205	12,139,205	12,139,205	36,417,615
	松久小学校給食管理運営事業		1,523,539			1,523,539
	東児玉小学校給食管理運営事業			1,981,679		1,981,679
	大沢小学校給食管理運営事業				1,883,498	1,883,498
合計			39,112,452	42,223,029	36,764,826	118,100,308
児童1人あたり			220,974	158,733	399,618	220,748

(参考)

48,556,820 ※中学校含む

学年別学級別児童・生徒数

資料4

令和3年度

令和3年5月1日 現在

小学校

		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計	
松久小学校	1組	27	27	28	32	28	30	172	
	2組								
	特別支援(知的)	2			1			3	
	特別支援(自閉・情緒)				2	1		3	
	計	29	27	28	35	29	30	178	
	内訳	男	17	15	19	17	14	15	97
		女	12	12	9	18	15	15	81
		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計	
東児玉小学校	1組	29	21	37	37	34	22	180	
	2組		22				23	45	
	特別支援(知的)	1		1	2			4	
	特別支援(身体虚弱)		1			1		2	
	特別支援(自閉・情緒)			1	1	2	1	5	
	計	30	44	39	40	37	46	236	
	内訳	男	16	23	17	15	18	23	112
女		14	21	22	25	19	23	124	
		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計	
大沢小学校	1組	13	13	18	13	9	12	78	
	2組								
	特別支援(知的)			1	1			2	
	特別支援(自閉・情緒)			1	1			2	
	計	13	13	20	15	9	12	82	
	内訳	男	5	8	9	7	7	6	42
		女	8	5	11	8	2	6	40
児童数合計		72	84	87	90	75	88	496	

中学校

		1学年	2学年	3学年	計
美里中学校	1組	31	31	28	90
	2組	31	31	28	90
	3組	31	30	28	89
	特別支援(知的)	2		1	3
	特別支援(自閉・情緒)	1			1
	計	96	92	85	273
	内訳	男	45	50	43
女		51	42	42	135

児童生徒数合計	769
男子	389
女子	380